

【令和8年9月15日発行：年4回発行】

平和祈念財団 だより

第 21 号

September
2026
Itoman mabuni



「慰霊の日 日の出を待つ摩文仁海岸」

【写真提供：安藤宏氏】

主な内容

- 戦後の遺骨収集について
- 戦没者遺骨収集情報センター収骨状況
- 七夕まつり 盆供養祭
- 令和8年度各都道府県の慰霊祭日程

2P

3P

4P

5P

平和の礎
検索コード

編集・発行

平和祈念財団だより NO21 編集・発行/公益財団法人沖縄県平和祈念財団
〒901-0333 沖縄県糸満市字摩文仁 444 TEL:098-997-2765 FAX: 098-997-2767
Email: heiwakinenzaidan@heiwa-irei-okinawa.jp



「還らぬ人とともに」沖縄県遺族連合会三十周年記念誌 (昭和 57 年発行) より

戦後の遺骨収集について



「魂魄之塔」(那覇市歴史博物館所蔵)

※「魂魄之塔」について

米須地区に移転收容された旧真和志村(現・那覇市)の住民が米軍の許可を得て遺骨収集班を結成。道路や畑、丘、森に散っていた遺骨を集め、昭和 21 年 2 月「魂魄之塔」を建立した。

沖縄戦で戦没した軍人軍属、戦闘協力者等は約二十万余といわれている。昭和二十年六月二十三日未明に、牛島第三十二軍司令官の自刃により沖縄戦は事実上終戦となった。

しかしその後、米軍による掃討作戦が各地で行われ、住民は一時本島の中北部と南部の知念地区の米軍指定地域に集団キャンプ生活を余儀なくされ、それぞれ自分の市町村部落への移動を許されたのは終戦の年の末頃からであった。

古来沖縄では、死者は土葬洗骨の慣習があり、霊魂に対する敬虔な感情から遺骨は、一片も残さず丁寧に取り扱い、墳墓内に納骨して祀っていた。

(承前) 沖縄戦での戦没者の遺骨も、すべて無縁骨として部落毎に収集し、一定の場所に集め、塔や納骨所を建立し祀ったのである。

沖縄戦は非戦闘員(老幼婦女子)までが戦闘に参加協力し、文字通り軍官民挙げての闘いで、一般県民でも身内の戦没者の埋葬が不可能な状況であった。(中略)

とくに、戦没軍人軍属の収骨は、確認者がない限り不可能であり、ほとんどの遺家族は、身内の遺骨を迎えないまま墓に、霊石を祀ってある状態である。そのため、県民の遺骨収集への意欲と熱意は強く積極的であった。誰ともなく沖縄の復興は、先ず「戦没者の遺骨収集、納骨から」との合言葉で進められた。



「萬華之塔(初期)」(那覇市歴史博物館所蔵)

※「萬華之塔」について

真壁集落(現・糸満市)の広場に建てられた塔。昭和 26 年 8 月、区民が付近一帯に散在していた遺骨を集めて合祀した。約 1 万 9000 柱が納骨されていたとされる。

戦没者遺骨の収集状況

平成 23 年、沖縄県における戦没者遺骨収集の加速化を図るため、沖縄県と平和祈念財団との委託契約により、戦没者遺骨収集情報センターが発足しました。

センター発足時から 6 年間は、年間 100 柱以上の収骨が行われていましたが、令和にはいってからは減少傾向にあり、近年は年間 50 柱前後で推移しています。



「国立沖縄戦没者墓苑」

戦没者遺骨収集情報センター発足以来の戦没者遺骨収集状況

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
151	100	173	110	108	30	7	18	56	57	49	46	61	90	54

令和 8 年 5 月 25 日現在の収骨状況

(1) 収集対象数	188,136 柱
(2) 令和 7 年 3 月末までの収骨数	185,467 柱
(3) 令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月末までの収骨数	54 柱
(4) 収骨数累計	185,521 柱
(5) 未収骨数 (1) - (4)	2,615 柱

遺骨収集活動について

戦没者遺骨収集情報センターでは、遺骨収集活動を行う個人や団体に対し、補助金申請・交付に関する支援をはじめ、遺骨収集作業に必要な用具の貸し出しや作業へのサポートを行っています。

また、実際に遺骨収集活動が行われている現場へ足を運び、活動状況を確認するとともに、必要に応じた作業の支援などを行っています。

令和 7 年度は、5 団体が情報センターの支援を受け、遺骨収集活動が実施されました。



糸満市内
活動の様子



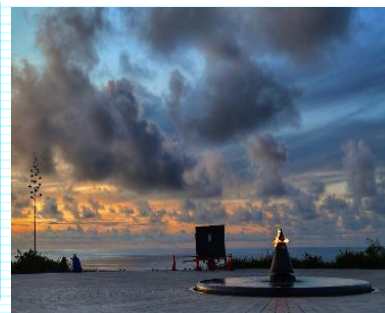
今回の表紙撮影

一頁の表紙は、ハワイ在住の安藤宏氏が撮影された写真です。

米国の航空関係企業に33年間勤務された安藤氏は、定期的に沖縄を訪れ「バックナー中将碑」の清掃活動を行っています。

また、沖縄を訪れるたびに、上空から望む離島の風景をはじめ、電照菊畑やエイサーなど、沖縄の様々な表情を写真に収めています。

今回は、その中から1枚を表紙に掲載しました。



七夕まつりを開催しました

7月3日から10日までの期間、公園案内所に笹を設置し、来園者の皆様とともに七夕まつりを開催しました。

今年も多くの方々に短冊へ願いごとを書いていただきました。

なかには、外国からの来園者の姿も見られ、七夕について説明を受けた後、短冊に願いを込めてメッセージを書く様子も見られました。

集まった短冊は、盆供養祭にてお焚き上げを行いました。



令和8年度盆供養祭

旧盆を前にした8月21日(金)、国立沖縄戦没者墓苑において、盆供養祭を執り行いました。

【趣旨】旧盆を迎えるに当たり、沖縄戦戦没者18万余柱が眠る国立沖縄戦没者墓苑において、戦没者の諸霊をお迎えして供養し、ご冥福をお祈りするとともに、平和を享受できることに感謝し、併せて、世界の恒久平和を祈念する。

来賓は、沖縄総合事務局長 小八木大成様、糸満市長 當銘真栄様、沖縄県遺族連合会会長 我部政寿様、沖縄県からは、生活福祉部保護援護課長 宮城石様のご出席下さいました。

金城克也平和祈念財団会長のあいさつに続き、茶道裏千家淡交会沖縄支部の御奉茶と琉球フィルハーモニックによる電子ピアノとフルートの音楽奉納が行なわれました。

その後、当財団の評議員、理事、監事をはじめ、約70名の皆様に御焼香いただきました。心より感謝申し上げます。心配された雨も降ることなく、無事に盆供養祭を終了することができました。



財団カレンダー10月～12月までの主な行事

10月2日(金)	平和祈念公園愛護活動(一社)沖縄県電気管工事業協会
10月中旬～12月	各都道府県の慰霊祭
12月6日(日)	那覇マラソン(公園は中間地点)
12月頃	ヒマワリ畑の植え付け
12月28日(月)	財団仕事納め



2026（令和8）年度

各都道府県等主催 戦没者追悼式日程

毎年10月から11月にかけての時期は、各都道府県の慰霊塔において、追悼式が集中して執り行われる時期となっています。

各自治体による追悼式には、御遺族を中心に、県や市町村の代表、議員の皆様、概ね40名前後の方々が参列されています。平和祈念公園内には32府県の慰霊塔があり、そのほかの自治体の慰霊塔については、宜野湾市（京都府）、八重瀬町（山梨県、高知県）、糸満市内（米須地域：宮崎県、和歌山県、北海道、奈良県、大分県、島根県、香川県、広島県、鳥取県、東京都／真栄里地域：山形県）などに所在しており、それぞれの場所で追悼式が執り行われています。



追悼式・慰霊祭 日程（令和8年9月15日現在）

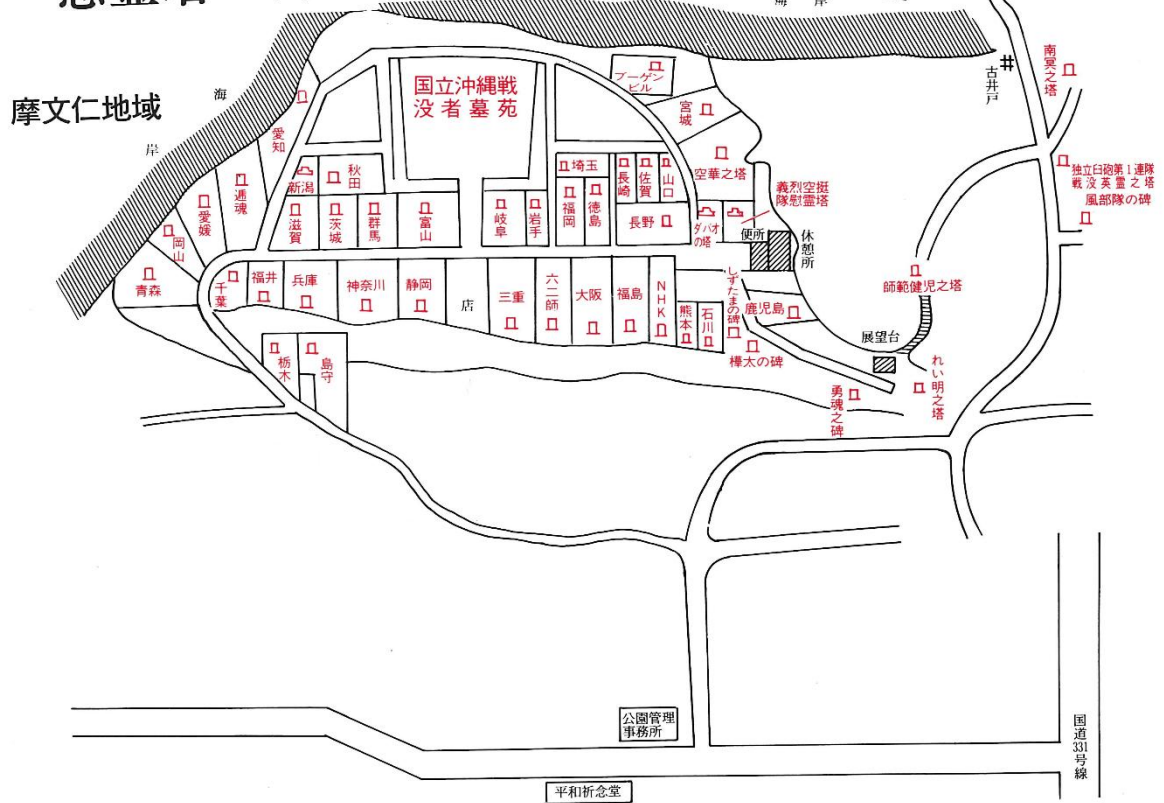
開催日	都道府県名	開催日	都道府県名	開催日	都道府県名
5月7日	滋賀県	11月12日	岡山県	11月20日	兵庫県・島守
10月17日	福井県	11月13日	岐阜県	11月20日	茨城県
10月23日	東京都	11月13日	香川県	11月25日	埼玉県
10月24日	韓国人慰霊塔	11月13日	広島県	11月26日	神奈川県
11月4日	鳥取県	11月13日	鹿児島県	11月27日	山形県
11月6日	山口県	11月16日	三重県	12月24日	群馬県
11月6日	島根県	11月16日	新潟県		
11月8日	山梨県	11月16日	高知県		
11月9日	宮城県	11月18日	徳島県	令和9年1月以降の開催県	
11月10日	佐賀県	11月18日	千葉県	1月14日	福岡県
11月10日	長崎県	11月18日	宮崎県	1月27日	長野県
11月11日	富山県	11月19日	愛知県	1月29日	和歌山県
11月11日	青森県	11月19日	静岡県		



大分県では2年に1回、
石川県では10年に1回、
追悼式が執り行われています。

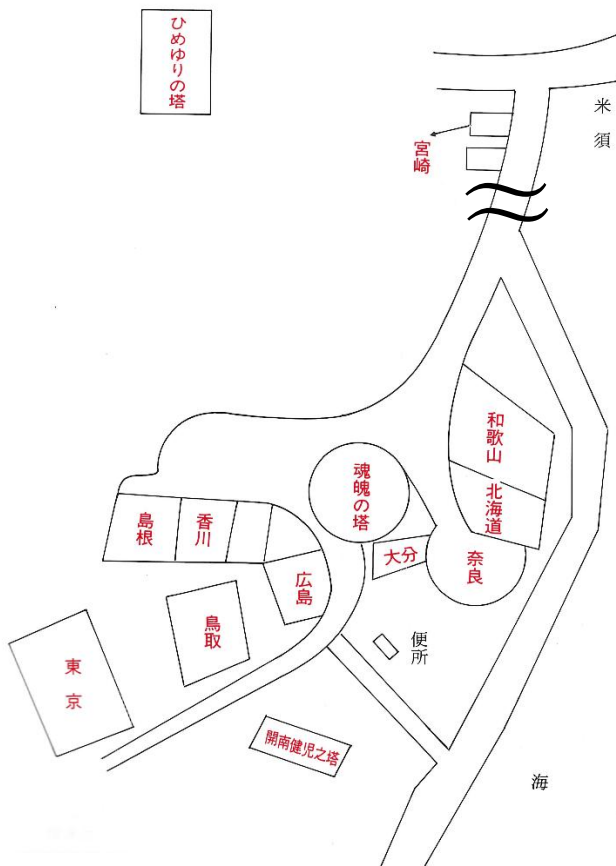


慰霊塔・碑の位置図



(糸満市米須地域)

(他地域に建立されている慰霊塔)



●糸満市(真栄里地域)

山形県 山形の塔

●宜野湾市

京都府 京都の塔

●八重瀬町

山梨県 甲斐之塔 高知県 土佐之塔



2023/09/05

風鈴仏桑花 (ハイビスカス)